

# はじける ころ

vol.21

- 人権の宝島  
中小学校 人権講演会  
～みんながいっしょに学んで育つために～……………1-2
- 箕面市人権教育研究会・箕面市在日外国人教育研究会・  
箕面市教育研究会 夏季合同一日研……………3-4
- エッセイ  
ココロと、オカネ かわのひでただ……………5-6
- 西南小学校 「いじめ」をなくそう人権教室……………7



げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



げ ん げ の の ぺ え じ

●写真募集！●子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

## 西南小学校 「いじめ」をなくそう人権教室

西南小学校では、「共に学び輝く子」～人権尊重の精神を基盤とした豊かな人間性をそなえ、自ら生きる力をもつ子どもの育成～」を学校教育目標に教育活動をすすめています。  
そして、各学年がこの目標にそって人権教育カリキュラムを作成し、実践していますが、今回は、3年生で人権擁護委員さんを招いて「いじめ」のない学校生活を送るためには、どうすればよいか学習しました。

ビデオ「プレゼント」を視聴し、いじめられている子・いじめている子・まわりで見ている子の気持ちを考え、いじめをなくすためにはどうしたらよいか考えました。



人権教育推進会議委員 小関政子  
授業を参観して心に残ったのは、委員さんが「自分が気持ちよく暮らすことを人権と言います。」「みんなが気持ちよく暮らせるようにお手伝いしています。」などと丁寧な自己紹介されたことです。困った時、身近に相談できる人たちがいらっしゃるという安心感を子どもたちが持つてくれたらいいなと思いました。

人権教育推進会議委員 竹綱珠衣  
いじめの子、見ている子、いじめられている子という設定での質問に対し、いじめている子を「ゆるさない」「いやな気持ちになる」「友達をやめたい」という気持ちになりながら、でも傍観者でいるのは「止めると、自分がいじめられる」と不安に思い、そしていじめられた子は「学校に行きたくない」「じぶんがいやになる」と思うだろうと子どもたちは、想像しています。こうした感性の子どもたちに、「どうしたら、解決できるだろう」と、問いかければ状況に応じた解決策を子どもたちは「あ～でもない、こ～でもない」と考えてくれそうだと思います。

人権教育推進会議委員 平沢清美  
「いじめめる人」「いじめられる人」「いじめを見ている人」

とビデオの登場人物の関係を固定化して問うと、どの子ども、数式を解くように「いじめはダメ」と答えを出します。でも、本当は問題を理解するだけでなく、実際に、どんな相手や場面でも、自他の気持ちを尊重できる強い優しさを持つことが人権教育のゴールです。そのためには、「こうすればいいと思うよ」という子どもたち自身の実感や意見をもっとたくさん聞く時間配分がほしいと思いました。

人権教育推進会議委員 大橋かおり  
私は、人権教室に以前保護者として参加したことがあります。その時は「いじめ」が些細なことからみんなに広がり、ゲーム感覚で人を傷つける感じを受け、親として我が子と思うと涙が出てきたことを思い出しました。今回は少し冷静に見ることができました。子どもたちの反応は、「かわいそうだから「いじめ」はよくない」でしたが、それは素直な気持ちでしょうが、その先の発展がないような気がします。「いじめ」は子どもたちだけの問題ではないと思います。大人も子どもと共に考えなくてはいけないのだと思います。

人権擁護委員：人権擁護委員は、法務大臣から委嘱され、地域に根ざした人権擁護活動を行っている民間の方々です。

### 人権教育推進会議情報誌『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議  
箕面市教育委員会

人権教育課 TEL072-724-6921 FAX072-724-6010

e-mail: edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成21年(2009年)1月

人権教育推進会議委員

平沢安政、谷川守保、河野秀忠、小林和幸、安東由紀子、大橋かおり、林喜久子、昌元真己、守婦朋子、小関政子、平沢清美、福永茂、石井順子、澤田敦世、柳井律子、竹綱珠衣、平林和男

「はじけるころ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。公共施設においています。

公開ホームページ：<http://www2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinken.html>

お詫びと訂正

はじけるころ20号1ページ1行目、「放課後や土曜日の子どもの居場所になっています。」は、「放課後の子どもの居場所になっています。」の誤りでした。お詫びし訂正いたします。



## 中小学校 人権講演会

### ～みんながいっしょに学んで育つために～

中小学校では、教職員と保護者が人権についてともに学びあう機会になるようにと、毎年PTAと共催で人権講演会を実施しています。

今年は、障害のある子どももいない子どもも、「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる一環として、「みんながいっしょに学んで育つために」をテーマに※「医療的ケア」についての話を聞き、理解を深めていく人権講演会を開催しました。



Qちゃんを使って実習



### 中小学校「人権講演会」に参加して

人権教育推進会議委員 守婦朋子

医療的ケアとは、具体的には、自力で痰を出せないから吸引する・食べ物を口から摂れないから経管栄養する・排泄機能障害のため導尿する・褥そうの処置をする・人工呼吸器の操作をする等という説明もあり、医療的ケアが、地域で当たり前で生活でき、個として尊重されるために果たす役割の大きさを改めて感じました。生活紹介のスライドや実習モデルQちゃん（人形）を使っての吸引体験で、医療的ケアを必要とする人々への理解が深まりました。

「ケアを受けながら、学校へ行くのはステキなこと」という言葉に明るさを感じました。医療的ケアを活用し、未来に向かって行動的に生きておられる方々の姿は、高齢者にも励ましとなると思います。私自身も親の介護を思い出し、「将来自分も医療的ケアが必要になるひとり」という視点をもつことが必要だと思いました。

### 「見るは易し、行なうは難し」

人権教育推進会議委員 平林和男

入院中の私の義父は、喉に穴を開けて痰の吸引をしてもらっています。看護師さんがしているのを横で見ていた時は簡単そうだったので、自分にもできそうだと思いました。しかし、中小学校の「医療的ケア」の講演会で配慮しなければいけないことがいくつかあることを聞き、そう簡単なものではないと感じました。この感覚は、今ではほとんどの公共施設に設置されているAEDに対する感覚に似ています。一度も実際に使用したことがないことから生じる不安なのだと思います。今我々にできることは、このような学習会に参加し実習体験をすることで不安感、抵抗感をなくしていき、いざという時に備えていくことだと思いました。

### 教職員の感想

ふだんこのような研修を受けないかぎりは、学ぶことができないことを教えていただくことができました。介護の経験から、知らないということはとても不幸なことと身にしみています。実際に行う立場になると責任を感じることにと思いますが、知るといことは大変大切なことと思いました。

ふだんの生活の様子や医療的な話を聞き、そして体験をさせていただいたことで、とてもよく分かりました。Aさんとは、校内で一緒に過ごしていますがなかなか様子をくわしく知る機会がなかったので、今日のお話や体験でより身近になったように思います。まだまだ、未熟な面も多々ありますが、今日の講演会をきっかけに、今後深く学びたいと思うことができました。ありがとうございました。

「医療的ケア」というと、難しくわからないし、できないと思われがちです。しかし、生きていく中で欠かすことのできない「呼吸をすること」や「食べること」「おしっこをすること」などは、障害がある人、ない人に関係なく、だれもが平等に自由にできるような環境であってほしいと思っています。今回のように医療的ケアについての研修で、見て、聞いて、触って、体験する機会があり、それに教職員と保護者の方が、いっしょに参加したことが大変よかったと思います。

### 保護者の感想

医療的ケアをしている子どもさんの日常生活について、写真や保護者としての講師の方の話を聞いてよく分かりました。そして、人に対して優しくなれる気持ちを学ぶことができました。現在、学年以外あまり交流がないと思うので、クラスや学年だけでなくもっとたくさんの人に知ってほしいと思いました。

※「医療的ケア」には、「たんの吸引」「経管栄養」「導尿」ほかいずれも含まれます。

# 箕面市人権教育研究会・箕面市在日外国人教育研究会 箕面市教育研究会 夏季合同一日研

本年度も8月1日に市内保幼小中の教職員400人が参加し、下記の6つの分科会で実践の交流を行いました。市内小中学校の実践報告や他市の取り組みに学び、これからの教育活動に生かしていこうとする参加者の意見がたくさんありました。

また、次世代を担う教職員の参加者も多く、今まで培ってきた人権教育の取り組みの継承の機会としても有意義な一日になりました。

分科会1	「算数・数学の今後の方向性・改善の視点」
講師	宮前孝雄さん（大阪府公立小学校算数教育研究会会長）
分科会2	「目で見える在日100年史」～とりくみやすい教材にするために～
報告校	「『目で見える在日100年史』を軸としたとりくみから」（箕面市立第二中学校） 「韓国・朝鮮の文化を通して」（萱野北小学校）
分科会3	部落問題学習の温故知新
報告校	「差別はあかんと伝えたい～5年生人権総合学習から6年生部落問題学習へ～」 （大東市立四条小学校） 「社会科における部落問題学習」（箕面市立第二中学校）
分科会4	見つめあい、伝えあう人間関係づくり
報告校	「自分を知ろう 伝えよう 仲間をふやそう 支えよう」（箕面市立第三中学校） 「いま どんなきもち？～友だちといいところを伝えあおう！～」 （箕面市立萱野小学校）
分科会5	「DVとコミュニケーション」～子どもをDVの被害者にも加害者にもしないために～
講師	遠矢家永子さん（NPO法人SEAN代表）
分科会6	～日常を見直そう～ <部落問題学習を教材にした参加型学習>
講師	許 輝子さん（とよなか人権文化まちづくり協会）

## 参加者の感想

### （分科会2）

「取り組みを継続することが大事」という講師の言葉が印象的でした。教材も大切ですが、出会うことから知るという体験を何度もすることで考えを深め、感性に届くんだなあと思いました。

### （分科会5）

大人と子どもの温度差をうめるのは、一方的な命令ではなく子どもの意見や文化を尊重しながら一緒に考えることだと思いました。



## 分科会4 「見つめあい、伝えあう人間関係づくり」に参加して

人権教育推進会議委員 小関政子

第三中学校、萱野小学校ともに、丁寧な取り組みをされていることがわかる発表でした。

第三中学校は「ここ2・3年は小学校でのよくない関係を引きずり中学校で一挙に吹き出し、なおかつ小集団（2〜5人）の中で発しあい、集団の外に新しい関係をつくることとができず、不登校になる傾向の生徒が特に目立っている。また、※リフレミネングを取り込むことによって自分に自信を持つ生徒も少し現れているのではないかと思える。」という現状を踏まえた一年生の取り組みの発表でした。萱野小学校は、より良い人間関係づくりのために言葉の力を育むことに力を注がれていました。肯定的にとらえられる言葉を獲得している子は人間関係も肯定的になっているなど、自尊感情を高める様々な取り組みが紹介されました。その中でも『友だちの良いところを見つけ』の「今日のキラキラさん」を一日も欠かさずやっているという話に感心し、また、自分の思いが言葉にでき、相手と



うまくつながる第一歩を子どもたちが獲得していつている様子は、子どもたちの笑顔と同時に「継続は力なり」だと思えうれしくなりました。

言葉のマジック「リフレミネング」によって自分が欠点だと思っていたことを言い換えてもらってうれしかった体験を重ねることで、一呼吸おいた関係ができるのだと思いました。

### 分科会6 ワークショップ 「日常を見直そう」

#### <部落問題学習を教材にした参加型学習>

人権教育推進会議委員 守婦朋子

「偏見や差別が良くないことだと知っていても、私たちは自分の意識しないところで、偏見を持ち差別に加担してしまっていることがあります」と内容紹介にありましたが、このワークショップでは、無意識での行動、信じていないけどしてしまう行動、何気ないひと言の影響について、理解を深めていくことができました。

『マイノリティのカミングアウト・立場宣言、あなたなら、どう答える？』のワークでは、友だちのAさんから、「実は、私、部落出身やねん」と打ち明けられたときに、自分はどうか答えるかを考えるものでした。選択肢は、①「知ってたよ」②「そんなこと気にしなくていいよ」③「関係ないよ」④「部落って何？」⑤「言ってくれてありがとう」⑥「大丈夫！」⑦「一緒に頑張ろう！」⑧その他 ご自分で考え



た答えなどです。

最初のワークは、姓名判断、地鎮祭、お祓い、女人禁制、差別戒名などのカードを「信じる」「信じない」「やる」「やらない」に分類していくものでした。

このカミングアウトのワークは、きちんと自分と向き合い、答えを選び、理由付けをしていく必要があります。私の答えは⑧「その他」で、相手の話を受けとめて傾聴し、⑤「言ってくれてありがとう」を言うとしたら、Aさんの話の最後にするのがいいかなと思いました。

いろいろな方々と話し、「そう思う」「そうは思わない」という自分の心に気づくために、今回のような研修の場が必要だと思いました。

※短所だと思えることも見方を変えれば長所に見ることができる。このように、枠組みをはずして違う枠組みで見るとリフレミネングという。

エッセイの共通テーマ：「死ぬな、殺すな」、一人ひとりの生命を大切に

# 「コロと、オカネ」



かわのひでただ

運動会もずうっと前に終わり、空がうっんと高くなりました。夜の風がつめたくなって、遠くの山々が赤い顔をしはじめています。

でも、四年A組のみんなには、そんなことは、まったくカンケーがないように、朝のはじまり前の教室は、ワイワイ、ガヤガヤとさわがしいばかりです。キンコーン、カンコーンとベルがなり、教室のドアがガラリと開いて、ヤスコ先生が入ってきました。とたんに、教室の中は、シーンです。

「おはようー」  
と、ヤスコ先生。

「おはようございませー」  
と、クラスのみんなの合唱。

ヤスコ先生は、クラスのみんながガタガタとイスにすわり終わるのを待つて、めずらしく小さな声で、話しはじめました。

「今日は、勉強をはじめの前、みんな、先生の友だちのことをお話します。少しむずかしいかもしれませんが、よく聞いて、よく考えてほしいと思います。」  
と、でも、声が少しふるえてくるようです。

「先生と同じ年、先生になった友だちに、キミコ先生という人がいてね。先生とは、大のなかよしでした。勉強のことや、あなたたち子どもたちのことまで、よく話し合いました。そのキミコ先生が、病気のために、一ヶ月前に亡くなりました。とても急なことで、先生は、ビックリしてしまって、悲しくて、なにもできなかったの。」

と、ヤスコ先生は、ここで小さく「ホンとセキをして、息をつきました。そして、

「昨日、キミコ先生のお連れ合いさんが、先生のことについて、『キミコの遺言なので、学校に通えない障害のあるとされる子どもたちや、特別な学校に行けていない子どもたちを応援している団体、遺産の一部を寄付したい。』とおっしゃってねえ。そのよね。キミコ先生は、障害のあるとされる子どもたちを、どんな子どもも、キミコ先生がいる学校にまでもらうんだと、三〇年間、ふんばっておられ

たのよ。だから、今のみんなの学校があるのよね。そしてね、五〇〇万円の小切手を差し出されたの。先生は、どうしていいのかわからないから、いろんなひとと相談して、今、学校のうち、そとで、医療的ケアのことで、そうそう、この学校にいる、みんなのお友だちでもある、人工呼吸器を利用している、アヤちゃんのような子どもたちを応援している市民団体があるので、その団体に寄付することになったのよ。」  
と、ここまで話すと、ヤスコ先生は、ホッと大きなため息をつきました。そして、小さな、小さな声で、  
「点数だけとか、算数、国語、社会なんかだけが勉強じゃないのよね。もっと気持ちの勉強をしない子どもがいるから、みんなの気持ちが世界中の子どもたちにとどいたり、つながったりするのよね。先生は、先生をしていてよかったわ。キミコ先生の友だちで、本当によかった。」  
と、しびやいて、そして、小切手にそえられていた、手紙を読みました。

『みなさんの活動のひとひつが、タンポポのわた毛のように、風にのり、ひろがり、遠くまでとどいて、深く根をへたくわて、このりまわ。』と。

ヤスコ先生は、そのまま、だまっしてしまいました。クラスのみんなは、「五〇〇万円なんて、スゴイなあ。」とか、「キミコ先生は、子どものことばかり、考えていたんだね。それも三〇年も、「気持ちの勉強って、どんな勉強なんだろうか。」とか、とか。はじまり前のワイワイ、ガヤガヤにもどります。窓のそのの木々が、秋の風にふかれて、落葉の雨をふらしています。

ヤスコ先生は、「オカネじゃないの、「コロなの。」とつぶやき、その大きなひとみから、大きなみだの玉をころげおとしました。でも、みんなは、それに気がつきませんでした。



## みんなではなしてあげたい

- あなたは、だれかのために「寄付」をしたことがありますか。あれば、それは、どのようなものですか。
- 点数だけが勉強ではないというのは、どういうことでしょうか。
- 遺言とか、遺産とは、なぜでしょうか。
- あなたは、大きくなれば、どのような仕事につきたいですか。
- あなたには、なんでも話せる友だちがいますか。あなたたちは、先生のことを、どのように思っているのでしょうか。先生と一緒に、話し合いましょう。

